

第5回 みたけ創生有識者会議 概要

とき 平成28年7月15日(金) 午後3時15分～午後5時40分

会場 御嶽宿わいわい館 交流棟

出席者(敬称略)

岐阜大学 小林智尚、東海化成工業 黒田晃司、ながたに農園 永谷嘉規
岐阜県庁 永井明子、十六銀行 遠山茂美、学校法人荻須学園 齊藤公彦
ジャーナリスト 柴田永治

行政 総務参事 加藤暢彦、企画担当参事 森島嘉人

事務局 企画課長 小木曾昌文、企画調整係長 日比野克彦、係員 荻曾弘太郎、伊藤博之

あいさつ

<総務部長>

- ・昨年、御嵩町人口ビジョンとみたけ総合戦略の策定をいただき誠にありがとうございます。作ったら終わりというものではなく、基本目標の達成に向けて事業を実施し、成果を上げることが大切です。本日は、昨年度の先行型交付金の事業評価と今年度進めている加速化交付金事業について説明させていただき、みなさまのご意見を頂戴したいと思います。よろしく願いいたします。

議題

(1) 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金(地方創生先行型)事業評価

<座長>

- ・次第に従って議事を進めていきます。地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金、地方創生先行型交付金について、事務局より説明をお願いします。

<事務局>

- ・資料1 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金、地方創生先行型交付金について、お手元に置いてありますタブレットと資料、両方見ながら説明をします。
- ・1 1事業について1つずつ事業を説明します。その後、それぞれの事業についてこの有識者会議により事業評価をお願いします。

1 地方版総合戦略人口ビジョン策定事業について

<委員>

- ・平成27年度から事業がスタートするうえで、平成26年度は調査しなかったのか。

<事務局>

- ・人口の現状分析については、国勢調査に基づくもので、5年に1回の調査であり、平成22年度までのデータにより行ったもの。新たなデータ等が出れば、その都度反映していく。

【評価】本事業については、事業評価指標の設定はないため、評価の対象としない。

2 移住交流促進体制構築事業について

<委員>

- ・地域住民と行政が一緒になって進めるという手法を学ぶ場としてはよかった。また、人材を育む場としてもよかった。今後の継続はどうか。

<事務局>

- ・平成28年度は、この事業の成果を踏まえワークショップを行い、「御嵩あかでんランド」というイベントの開催を計画している。

<委員>

- ・移住交流促進体制構築事業という事業名からはどうかと感じている。イベントの規模はどれくらいを想定しているか。一部の参加者だけでなく、多くの方への広がり of 仕組みが大切である。

- ・今後の方針として、自走していけるコミュニティの形成とあるが、自走していける仕組みはどのように考えているか。

<事務局>

- ・イベントの規模は、昨年参加した方はスタッフとして動いていただき、名古屋市など外から誘客して楽しんでいただけるものと考えている。そして、そのスタッフの方には成功体験を感じていただき、次につなげていきたい。
- ・具体的には決まっていないが、今年度のイベントを計画・実行していくなかで、コミュニティが広がり、また、財源も合わせて考えながら継続していけるようにしたい。

<委員>

- ・イベントの検討について、小中学生にもアイデアやイメージいただきながら、教育委員会を巻き込んでうまく事業化に持っていけるといい。そして学校の授業でやっていくこともできるのではないか。
- ・今後の展開が楽しみな事業と考える。

<座長>

- ・本日出た意見は、事務局で取りまとめて、私のほうで確認することとする。

【評価】有効であった。

3 観光プロモーション促進事業について

<委員>

- ・観光プロモーションの情報発信ということでホームページサイトを構築されたが、そのサイトを見つけるのが大変である。町のホームページからだとリンクされており見つけることができるが、ほかのサイト案内もあり、たどり着きにくい。このサイトをどう見せていくかが今後の課題である。
- ・指標となっている「わいわい館」と「みたけ館」の内訳・観光客の利用者数はどうか。

<事務局>

- ・「わいわい館」は中山道を観光などで歩いていて寄っていかれる方が多く、利用者の多くが観光客と思われるが、「みたけ館」は図書館や郷土館を併設していて、観光客だけではない。1つの指標として出したが、「わいわい館」の指標に重きを置きながら推移をみていきたい。

<委員>

- ・御嵩町の食べ物屋や史跡などの観光資源を来訪者にどう案内するか、困ってしまうところがある。御嵩駅前に来ても、周りには少ない。

<事務局>

- ・御嵩駅では案内パンフレットも置いてあり、また、電動アシスト自転車の貸し出しもしている。今後も点から面につなげることを検討していく。

<委員>

- ・ホームページの充実もいいが、実際に来訪された方への案内方法の充実も図ってほしい。
- ・ホームページを県観光連盟などの他のホームページにリンクすると広がっていくのではないか。

【評価】—

- ・まだ、立ち上がったばかりでこれから進めていくものであり、今後に期待するもので、現段階で、総合戦略のKPI達成に対する有効可否の評価は難しい。

4 ぎふ・みたけの木育推進事業について

<委員>

- ・事業対象が保育園であるが、幼稚園はどうか。そこだけに留まらず、小学校にもつなげればしっかり取り組みができていくと思われる。取り組んだ園児に聞くと「よかった」という声も聞かれるので、今後年齢層を上げていくと広がりも出てくる。
- ・大人により決められた遊び方だけでなく、そのまま木を置いておくと、子どもたちが自ら遊び、まったく違ったものになるのではないか。本当に楽しみである。

【評価】有効であった。

5 官学民連携 未来につなぐ！ふるさとカルタ作成事業について

<委員>

- ・このカルタを販売する予定はあるのか。みたけのお土産にいいのではないか。

<事務局>

- ・今回作成したものは、地域の子ども会や団体さんで使っていただくものである。原版はあるので、増刷することは可能である。

<委員>

- ・このカルタをつくることが目的なのか。

<事務局>

- ・地域の良さを再発見する事業である。

<委員>

- ・その点で、作ってしまったら終わりにしないように、子どもたちがこれを使いながら新たなものを追加していけるようにしたらいいと思う。
- ・町民向けのもの、外向けのものを作るといいと思う。
- ・地元の方言や英語で作っても面白いと思う。

【評価】有効であった。

6 御嵩町移住交流・子育て支援ポータルサイト構築事業について

<委員>

- ・動画がうまく仕上がっているが、コンテンツの数に比べ、中身の充実が不足していると思う。
- ・空き家バンクの登録情報が少ない。ニーズはありそうなので中身を充実させてほしい。

【評価】有効であった。

7 地域資源活用による地域経済活性化事業について

<委員>

- ・観光プロモーション事業と併せて進めて、もっと大きな目標に向かっていけるといいと思う。そのためのツールと考える。特産品の「みたけのええもん」に結び付くという点でいいと思う。
- ・今回のロゴマークは、ええもんのお店ではどう扱っていくのか。

<事務局>

- ・シールを商品の一部に貼って頂いたり、ロゴの入ったレジ袋も用意したので活用していただくことを考えている。

<委員>

- ・パッケージにも統一したものを使うと購買意欲が出るのではないかと思う。
- ・住民の認知度が向上し、お土産の販売にもっとつながるといいのでは。

【評価】有効であった。

8 支え合いの地域づくり推進事業について

<委員>

- ・この事業は講演を行うことが目的か。

<事務局>

- ・介護保険制度が大きく変わっていくなかで、地域で支えあうという高齢者ボランティアなどに対する意識啓発のために行ったもの。

【評価】 —

- ・この講演会をきっかけとして実際に、そういったボランティアが行われることに大きく期待するもので、現段階で、総合戦略の KPI 達成に対する有効可否の評価は難しい。

9 子どもの発達支援推進事業について

<委員>

- ・この事業で行ったワークショップはだれをターゲットとしたものなのか。

<事務局>

- ・このワークショップの目的は、現状の把握と今後推進していくための資料の分析である。児童の発達支援に関わる職員、大学関係者、専門家有識者、地域の児童発達支援に関わっている住民によって行ったものである。

<委員>

- ・ことばの教室はどのような子を対象としているのか。
- ・専門の方が行っているか。

<事務局>

- ・ことばだけでなく、いわゆる発達支援全般にわたり対象としている。
- ・臨床心理士などの専門家が保育園など巡回しながら対応している。また保育士も専門知識を勉強しながら支援にあたっている。

<委員>

- ・一保育園などで対応していくことは不可能であり、ワークライフバランスの推進など社会全体での体制づくりが必要であると考えます。

【評価】 有効であった。

10 すくすくもぐもぐ子育て応援事業について

<委員>

- ・食育という点で、地域の食材を使ってもいいのではないかと。ただ、食すのではなく、食べておいしいなどにより外へ発信していけるような広がりがあればいいと思う。
- ・「みたけのええもん」をこういったところや、保育園や学校の給食に出していくこともいいのではないかと。

【評価】 有効であった。

11 里山再生！森林保全活動推進事業について

<委員>

- ・木育推進事業と一緒にいけるといいのではないかと。
- ・再生可能エネルギーという点から非常に大事な事業と考える。
- ・指標に届かなかった原因はなにか。

<事務局>

- ・備品購入であるウッドチップパー機の購入が遅れたため、当初の回数に届かなかった。

<委員>

- ・ウッドチップパー機の活用だけでなく、枝打ち体験とか、もっと手軽なことで保全活動ができればいいと思う。

【評価】 有効であった。

議題

(2) 地方創生加速化交付金事業の説明

<座長>

- ・次に地方創生加速化交付金事業について、事務局より説明をお願いします。

<事務局> 事業説明

<委員>

観光プロモーション事業について

- ・縦割になりがちなので横の連携を持って事業を進めてほしい。
- ・上手いアピールの仕方を工夫してほしい。
- ・みんなにツイッターなどのツールをうまく活用してもらえる、いわゆる口コミみたいにできるといい。
- ・これもうまく県の観光連盟などの協力を得られるといいと思う。
- ・どのエリアなのか、どの年代なのかターゲットを考えて行うといい。

観光基本計画について

- ・史跡や食べ物などを観光資源としがちであるが、やはり人に注目してほしい。他から見れば特別な取り組み、たとえば「へご山茶」など、いろいろ面白いことをやっている人と一般の人をくっつけることを考えたら面白いと思う。
- ・もっと人という観光資源を使って「観光」を深化させていくように汗をかいてほしい。

閉会あいさつ

<企画調整参事>

- ・本日は長時間にわたりご議論ありがとうございました。事業ごとのご意見だけでなく、事業同士のリンクとか、今後への活用、発展につながるという貴重なご意見を頂戴いたしまして誠にありがとうございます。そのようなご意見を踏まえながら今年度の事業を取り組んで参りたいと思います。今度とも引き続きよろしく願いいたします。

以上